

# 各区地域包括ケアに関する取組

中央区

令和2年3月末現在

## 〇概況

<b>【人口動態，地形，生活環境等の地域特性】</b> 中央区は，福岡における屈指の商業集積地である天神を擁し，数多くの商業施設が立地し，交通の便も良い。人口は本市で6番目ではあるが，人口増加率は7区内で最も高い。他に5年間で区の数以上の人の転出入（移動），昼間の人口は夜間の1.6倍，単身世帯が6割，0～14歳の年少人口率が7区中最も低いなどの特徴がある。 <b>【高齢者の状況（高齢化率や介護保険受給者状況）】</b> 高齢化率は市と比較すると低いが，年々確実に上昇している。また区内では高齢化率が40%を超えた校区もあり地域差が大きい。65歳以上の人がいる世帯をみると，単身世帯が47.8%高齢者夫婦のみ22.6%であり，その他の年齢層との同居率は市内で1番低い。またオートロックマンション居住者も多く，安否確認が困難となる事も多い。 <b>【社会資源（介護サービス事業所や医療機関，地域コミュニティの状況）】</b> 日々の地域保健福祉活動からは，天神周辺を中心に，近隣との関わりを好まず家族とのつながりも弱い独居高齢者が目立つ等，都市部が抱える高齢者支援問題がうかがえる。また，医療機関等は利便性もよく多数存在するが，他区からの受け入れを行っている総合病院が多く，介護保険事業所・施設ネットワーク等が少ない。	人口（人）	183,627
	高齢者数（人）	35,201
	高齢化率（%）	19.2
	小学校区数 （自治協議会数）	12 (14)
	いきいきセンター 圏域数	5

## 〇地域包括ケアに関する現状と課題

中央区では，専門職間の連携強化と，各団体での次世代の担い手育成を目的とした任意の専門職団体である「中央区医療と介護のまちづくりプロジェクト」が，縦断的に地域ケア会議と関わり，協働してシステム作りを進めている。専門職が地域に出向いて在宅医療の推進・介護予防等のテーマで出前講座等を実施している。

高齢者が集う場所としてカフェ等の場づくりは少しずつ進んではいるものの，出かけることを好まない方，人との関わりを好まない方への支援について心身の機能低下が問題化する前に働きかけをどうするかが大きな課題である。住民が元気なうちから人生の終い方について自ら考え，介護予防や介護の備えについての啓発が必要である。また中央区は単身高齢者の割合が高く，キーパーソンがいない高齢者の支援体制づくりや権利擁護の視点での支援体制の強化も必要である。

## 1. 令和2年度取組の中で，特徴あるもの

### 取組内容

- ①認知症高齢者の支援体制づくり
- ②健康パークステーション事業
- ③中央区専門職による啓発の強化（在宅医療と介護の出前講座，緊急時の備え）

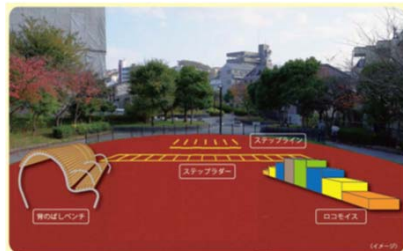
#### 1 認知症高齢者の支援体制づくり

- ・認知症サポーター養成講座の開催，ユマニチュードの広報
- ・支援者の連携体制（事業所等ネットワーク構築，交流）
- ・避難支援等関係者での見守りマップづくり等の活用支援等



#### 2 健康パークステーション事業

健康遊具を活用した周辺住民の介護予防への啓発。地域住民や医療や介護関係機関，大学等が連携し，協力体制を協議。



#### 3 中央区専門職による啓発の強化

##### ①「在宅医療と介護の出前講座」の啓発

在宅医療・介護の市民啓発として予防の視点も含め，まちづくりプロジェクトの構成専門職団体が各々テーマを定め実施。シリーズ教室で開催したり等，地域から広く希望を募り展開している。

##### ②緊急時の備えに関する啓発

元気なうちから緊急時の備えを促す啓発が必要であり，おくり手帳・保険証と一緒に所持できるように緊急時連絡カード等活用の普及の強化。

#### まちづくりプロジェクト構成専門職団体

医師会・病院・歯科医師会・薬剤師会・福岡県理学療法士会・福岡県医療ソーシャルワーカー協会・介護支援専門員連絡協議会・訪問看護ステーション会・福岡県作業療法協会・福岡県栄養士会



緊急時連絡先カード

ご本人氏名	
ご本人連絡先	
緊急時連絡先	
住所	
電話番号	

★緊急時★ 連絡カード

おのりかた	
カード所有者	
住所	
電話番号	

福岡市社会福祉協議会 社会福祉協議会作成

## 2. 令和元年度の取組状況

### ① 個別支援における成功事例、課題など（個別支援会議の傾向など）

検討事例の8割は認知症や精神症状があり、キーパーソン不在で見守り体制等の整備、金銭管理や意思決定支援が必要な方が多かつた。会議の約2割に地域役員の参加があり、地域の方と関係者がお互いの役割を認識し、連携がとれるようになった。

個別支援会議開催状況 ・会議回数：35回

### ② 住民同士の助け合い・支えあい活動

【買い物支援による生活支援】  
地域と商店会、事業所の共働による買い物困難な高齢者への支援



【災害等をみすえた見守り活動】  
地域の避難支援等関係者の連携による見守りマップづくりや校区防災訓練での安否確認訓練



【認知症になっても安心して暮らせる地域づくり】  
認知症を理解し、地域で支える仕組みづくりを検討

ホットラインカード作成



中央区Run伴



高齢者地域支援会議 ・会議開催校区（地区）数：10校区（地区），延べ回数：20回

開催状況

・検討内容：高齢者の実態・課題について意見交換し、地域で高齢者を支えるための解決策の検討、取組

### ③ 在宅医療・介護連携や多職種連携の推進に向けた取組

#### 圏域連携会議等



- ・各包括で地域課題からテーマを定め実施。
- ・苦慮している事例に多い精神疾患に関する講話や法律に関する解説等を加える等、参加していただく専門職にご協力をいただき、効果を高める取組が見られた。
- ・民生委員も参加し、地域ができること、専門職ができることを考え、課題を共有できた。

#### 在宅医療と介護の出前講座（7回実施、191人受講）

【目的】①介護の備えを高齢者自身が考える  
②医療と介護の専門職が地域との連携を考える



圏域連携会議

開催状況

・会議回数：8回（5圏域）

・内 容：地域課題の共有、ネットワークづくり、事例検討、精神疾患・防災に関する講話など

### ④ 区レベルの取組（特徴ある取組）

【部会】①在宅医療・介護部会「在宅医療・介護連携のための取組、中央区の機能別ブロック支援病院の連携体制の強化、単身高齢者の支援について」②権利擁護部会「処遇困難事例への各団体の連携した取り組みについて」③生活支援・介護予防部会「生活支援・介護予防の取組について」「単身高齢者・高齢者のみ世帯への対応について情報交換」

【地域包括ケア推進会議】①統計報告②昨年度の地域課題への取り組み状況報告③各地域ケア会議実施状況および地域課題報告④地域課題の検討

【健康パークステーション】梅光園緑道の健康遊具を使って、周辺住民の介護予防の啓発。地域住民や医療や介護関係機関が連携

区地域包括ケア  
推進会議開催状況

・区地域包括ケア推進会議 1 回

・部会 ①在宅医療・介護部会：1 回，②権利擁護部会：1 回，③生活支援・介護予防部会 1 回

・検討結果等：単身高齢者・認知症の人への支援体制強化、中央区のブロック病院の機能を生かした多職種の連携体制の検討、各団体が実施する取組や研修、緊急時の備えの啓発の検討、災害時の高齢者の支援体制の整備

### (2) その他、在宅医療・介護連携の推進に関する取組、事業所ネットワークの活動等

取組	具体的内容
多職種連携研修	中央区医療と介護のまちづくりプロジェクトが企画し年3回実施。 ①ブロック支援病院の機能と役割、病院と在宅との連携②認知症の理解と在宅生活の支援③ACPを考えてみよう、もしもの時のための「もしバナゲーム」体験会
在宅医療に関する市民公開講座	市民向けに「かかりつけ医と創る「生き逝き人生」～生き方も死に方も自分で決めよう～」をテーマに講演会を計画。（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）
①ケアマネ会 ②ケアマネとMSWとの交流会 ③訪問看護ステーション連絡会 ④特別養護老人ホーム・小規模多機能ホーム 情報交換会	①毎月研修会や事例検討を実施。圏域ごとの協力体制構築を図っている。 ②区内のケアマネとMSWと共に企画し、交流会と実施（2年度目） ③中央区訪問看護ステーション会の自主的な活動に繋がり、お互いがスキルアップできる関係づくりがなされている。 ④地域との関わりについて情報交換を実施
中央区社会資源情報ブックの活用推進	3師会、中央区ケアマネ会、いきいきセンターの協力を得て平成26年度より作成し、平成29年度からバインダー式で情報更新方法を改善し、支援者となる関係団体へ配布している。